

セルビアで「コウノトリプロジェクト」 自然取り戻そう 兵庫県環境研究センター

毎日新聞 2020年5月7日 16時29分(最終更新 5月7日 17時16分)



くちばしが赤いヨーロッパコウノトリ（シュバシコウ）の剥製（右）。くちばしが黒い日本のコウノトリ（左）とは別種＝兵庫県豊岡市祥雲寺の市立コウノトリ文化館で2020年3月24日午後2時26分、村瀬達男撮影

東欧の旧ユーゴスラビア紛争により国土が荒廃したセルビアで、兵庫県環境研究センター（神戸市）が、コウノトリが生息できる自然環境を取り戻す取り組みを進めている。名付けて「コウノトリプロジェクト」。今年から3年計画で、NATO（北大西洋条約機構）の空爆で汚染された土壌の浄化や自然公園の再生を目指す。2020年2月にはコウノトリの野生復帰に成功した同県豊岡市の中貝宗治市長が現地に招かれ、環境保護と経済活動の両立について講演をした。【村瀬達男】

欧州では、ヨーロッパコウノトリ（シュバシコウ）が約85万羽生息している。日本の特別天然記念物のコウノトリとは別種で、くちばしが赤いのが特徴だ。NATOが1999年、紛争鎮圧のため首都ベオグラードの隣のパンチェボ市の化学工業地帯などを空爆し、工場から有害物質が流出して土壌や地下水が汚染され、有害物質によるコウノトリへの影響が懸念されている。



白鳥がいたポニャビツァ自然公園の川。水質は悪く、ヨーロッパコウノトリの姿はなかった＝兵庫県環境研究センター提供

同センターは公益財団法人「ひょうご環境創造協会」の一機関。2014～17年、JICA（国際協力機構）の「草の根技術協力事業」に参加してセルビアの環境を調査し、現地で分析技術者を育てた。第2期となる今回は、ヨーロッパコウノトリが羽を休めたパンチェボ市郊外のポニャビツァ自然公園（約194ヘクタール）に着目し、民家の下水や農薬が流入して水質が悪化した同公園の川の環境改善を、土壌・地下水汚染対策と共に目的に加えた。

今後3年かけて専門家チームをセルビアに年3回派遣し、化学工場地帯と廃棄物集積場の浄化や自然公園の再生に取り組む。現地の研修生も毎年6人ずつ受け入れ、産学官民のリーダーを養成。パンチェボ市に政策提言をしたり、シンポジウムを開いたりして、市民の環境意識も高める。



パンチェボ市の廃棄物集積場。有害物質で汚染されている＝兵庫県環境研究センター提供

2月に県立コウノトリの郷（さと）公園（豊岡市）の出口智広・主任研究員と共にセルビアに招かれた中貝市長はベオグラード大で講演。「コウノトリがすめる自然が戻れば、観光客が来て、農作物も高く売れる」などと力説。パンチェボ市長には「環境保全と経済活動が両立することを農家に理解してもらうのが大切。市が補助金を出すのもポイントだ」などと助言した。毎日新聞の取材に中貝市長は「セルビアで成功するかどうかは、いかに住民の気持ちを高められるかにかかっている」と期待する。

同センターのプロジェクトリーダー、中野武・研究参与（大阪大学招へい教授）は「産学官民が協力し、持続的に環境保全ができるシステムを作りたい」と話している。



くちばしが赤いヨーロッパコウノトリ（シュバシコウ）の剥製。くちばしが黒い日本のコウノトリとは別種＝兵庫県豊岡市祥雲寺の市立コウノトリ文化館で2020年3月24日午後2時23分、村瀬達男撮影

兵庫県豊岡市が先進地 産業、観光への波及効果も

日本で生息するコウノトリは、水田の農薬使用でコウノトリのえさとなる生き物が減ったことが原因で1971年、野生では姿を消した。最後の生息地となった豊岡市では、地元の人や市、県などが協力してコウノトリの繁殖に取り組んできた。

市は、国や県と共に無農薬や減農薬（75%以上）による「コウノトリ育む農法」を、農家に補助金を出して奨励し、冬に田んぼに水をためてイトミミズなどの生物を増やすよう要望した。これにより食物連鎖がよみがえり、2005年から放鳥を開始。野生で生息するコウノトリはいまや170羽を超えて、全都道府県で飛来する姿が確認された。

産業への波及効果も大きい。「コウノトリを農業で支える」とのイメージ戦略が奏功し、減農薬米の価格は新潟県魚沼産コシヒカリと同程度、無農薬米はそれ以上になり、栽培面積は市内で428ヘクタールに拡大した。JAたじまは、同農法による「コウノトリ育むお米（コシヒカリ）」を19年産は、国内で約1300トン販売し、輸出ではシンガポール、米国、香港、アラブ首長国連邦、豪州、台湾の6カ国・地域で計20・7トン（20年2月末現在）を売り上げた。



「コウノトリも暮らせるまちづくり」と題してベオグラード大で講演する中貝宗治
市長＝兵庫県豊岡市提供

飼育コウノトリを常時観察できる県立コウノトリの郷公園は年間約20万人が来園し、重要な観光資源になっている。

旧ユーゴスラビア紛争

宗教、言語、民族が異なる六つの共和国が連邦国家を形成する旧ユーゴスラビアで1991年、スロベニアとクロアチアの独立宣言をきっかけに始まった内戦。民族対立を背景にボスニア・ヘルツェゴビナやマケドニアも離脱し、泥沼化した。95年に和平合意した後も、セルビア南部のコソボ自治州が独立を求めて紛争となり、99年に北大西洋条約機構(NATO)軍がセルビア側を空爆。コソボは2008年に独立を宣言した。